

妊産婦・子ども連れ

妊娠初期の妊婦は、外見からは妊娠していることが分かりづらいことから、周囲からの理解が得られにくいといわれています。また、段差のある場所や各種交通機関には、子ども連れにも配慮を必要とする場所が多いと考えられます。

妊産婦や子ども連れになってみて初めて、今まで気付かなかった不便さに気付く場合も多いものです。妊産婦や子ども連れにも優しい環境づくりに取り組む必要があります。

困っていることを理解しましょう

妊娠初期には、外見からは妊娠していることを周囲の人たちに分かってもらえません。しかし、つわりによって吐き気があったり、疲れやすくなったりして、立っていることさえもつらいことがあります。また、妊婦は足元が見えにくく、前かがみの姿勢やしゃがむことが難しいなどの動作困難があります。

さらに、小さな子どもを連れての移動は、段差のある場所がとても大変です。例えば片手に赤ちゃんを抱きかかえ、もう一方の手でベビーカーや荷物を持たなくてはなりません。特にベビーカーを片手に持っている場合には、足元が見えにくいために危険です。

こんなことに配慮しましょう

最近では、マタニティマーク(33ページ)をカバンなどにつけている妊産婦が増えました。電車やバスの中でこのマークをつけている人を見かけたら、席を譲るようにしてください。

小さな子どもを抱いて階段の上り下りをしたり、電車やバスなどに乗る人を見たりしたら、荷物やベビーカーを代わりに持つなどの配慮をしてください。

周囲の人の喫煙によって、妊婦だけでなく、おなかの赤ちゃんにも悪影響が及ぶ可能性があります。妊産婦の前での喫煙は避けてください。



妊娠中は席を譲ってもらうと助かります。



電車やバスなどに乗る際には、ベビーカーを持つなどの手伝いがあると助かります。

音声コード

